
赤穂市大津堂山遺跡試掘調査報告書

山陽自動車道大津インター

昭和 54 年 3 月

兵庫県赤穂市



大津堂山
(試掘調査前)



調査風景

赤穂市大津堂山遺跡埋蔵文化財試掘調査報告

1. 調査地 赤穂市大津字堂山 山陽自動車道バイパス通過地
2. 調査日 昭和54年1月3日～7日（5日間）
3. 調査員 松岡秀夫 有年考古館々長
河原隆彦 東洋大学附属姫路高等学校教諭
谷崎良晴 神戸野田高等学校教諭
松岡秀樹 兵庫県播磨高等学校教諭
松本保 赤穂西中学校教諭
谷中進 赤穂中学校教諭
広山堯道 赤穂高等学校教諭
赤穂市教育委員会・市史編さん室・人夫実21人
4. 調査方法 東西50米、南北30米の調査該当地を10米角に区切り、各区に縦横2メートルずつの試掘地を設定、調査した。
5. 調査成績
 - (A列)
 - A I 1.30米の深さを8層に区別した。第3層(0.5米)の黒褐色粘土層から、土師弥生式土器の小破片出土。第6層(0.8米)のところに厚さ約0.2米の貝層が発見された。貝類はハイガイを主としていて、時に須恵器の破片を混じている。その下の第7.8層は砂層である。この貝塚は北方に広がっている模様である。
 - A II 深さ1.3米の試掘穴は5層の地層からなり、第3層の黒褐色粘土層から弥生、土師、須恵、製塙土器等の破片出土。第5層から土師器片出土。
 - A III 1.8米の深さまで試掘、第3層(0.4米)の黒褐色粘土層から弥生、須恵の破片出土、次の第4.5層からも土器片出土。
 - A IV 1.9米の深さまで試掘、9層に分けられる。第3層から弥生、土師片出土、第4.5層からも土器片出土、第6.7.8層は色を違えた砂層であるが遺物は含まない。遺構なし。
 - A V 試掘穴は6層の地層からなっている。第5層の褐色砂層から、土師、弥生の破片とサヌカイト製の石包丁出土。遺構なし。
 - A VI 1.2米の深さまで掘る。地層は8層に分かれている。第3層の褐色粘土層から土師破片出土、以下の各層に遺物を含まず。遺構なし。
 - (B列)
 - B I 1.0米の深さにて砂層となる。7層の地層を分ち得るも、第3.4.5層のあたり

より、1～2片の土師器片を採取したのみ。

- B II B I と同様1.0米の深さまで白砂層となる。第3.4.5層のあたりより少量の土師、弥生片を採取。
- B III 前2つのトレーナーと同様、1.0米附近にて白砂層となる。第4.5.6層より少量の弥生、製塙土器片を採取す。遺構なし。
- B IV 1.8米の深さまで発掘、第5層の黄砂層からかなりの縄文土器片出土。遺構なし。
- B V 1.8米の深さを5層に分けられるが、第3層の黒褐色土層から須恵器、土師器、土釜片等出土。
- B VI 1.30米の深さまで掘る。地層は5層に分けられる。最下層の黒砂層から土師、縄文片出土。遺構なし。

(C列)

- C I 1.5米の深さまで発掘す。地層は5層に分けられる。第3層の褐色土層から摺鉢片、土師器片出土。第4層は褐色砂層で軟かく弾力性である。その下層の黒褐色砂層との間に巾0.15米、長さ約0.5米、厚さ0.03米の板が杭に支えられて立ててあり、この板と0.6米隔てて、更に厚くて長い板がほぼ平行に立てられている。この板はその先端を試掘穴の壁中にはいっててその全長は測り得ない。
第4層の褐色土層は入浜式塩田の土質に似ていること、板を立てて囲った遺構が発見されたことは重大で、ここに古代塩田の存在を推測せしむるに充分な資料である。
- C II 1.2米の深さまで発掘、地層は6層に分けられるが、第3.4.5層の黒褐色土層から白色の山礫に交って、土錘、須恵器、土師器片出土。遺構なし。
- C III C II 同様、1.2米の深さにて、淡色砂層となる。地層は5層に分けられる。第3.4層の黒褐色土層から須恵器、土師器片出土。
- C IV 1.2米の深さまで掘る。地層は6層に分けられる。第3.4.5層の黒褐色の礫交りの層から黒褐色砂層にいたる間に、円筒埴輪片、弥生式土器片、須恵器片、布目瓦片が出土、須恵器には底に糸切紋を有するものが交っている。
- C V 1.5米の深さまで掘る。地層は6層に分けられる。同じく第3.4.5層の黒褐色の礫刻の層から黒褐色砂層にいたる間に円筒埴輪片、弥生式土器片、須恵器片、土師器片、土錘等が出土した。遺構はない。
- C VI 1.5米の深さに掘る。地層は同じく6層に分けられ、耕土、客土を除いた第3層の黒褐色の土層から、弥生前期の土器片、土師器片、須恵器片、布目瓦片が出土、須恵器には底に糸切紋を有するものが交っている。

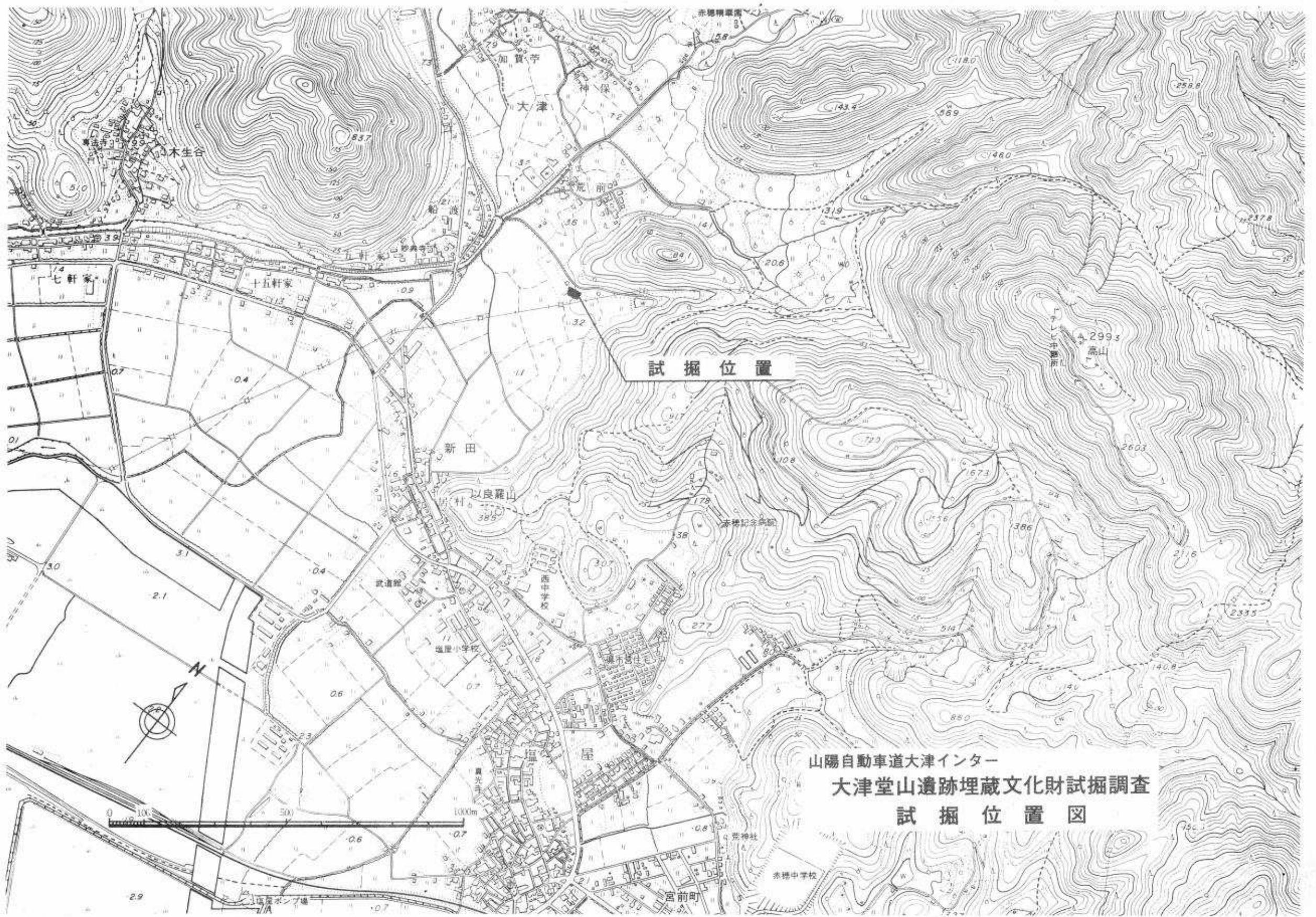
(D列)

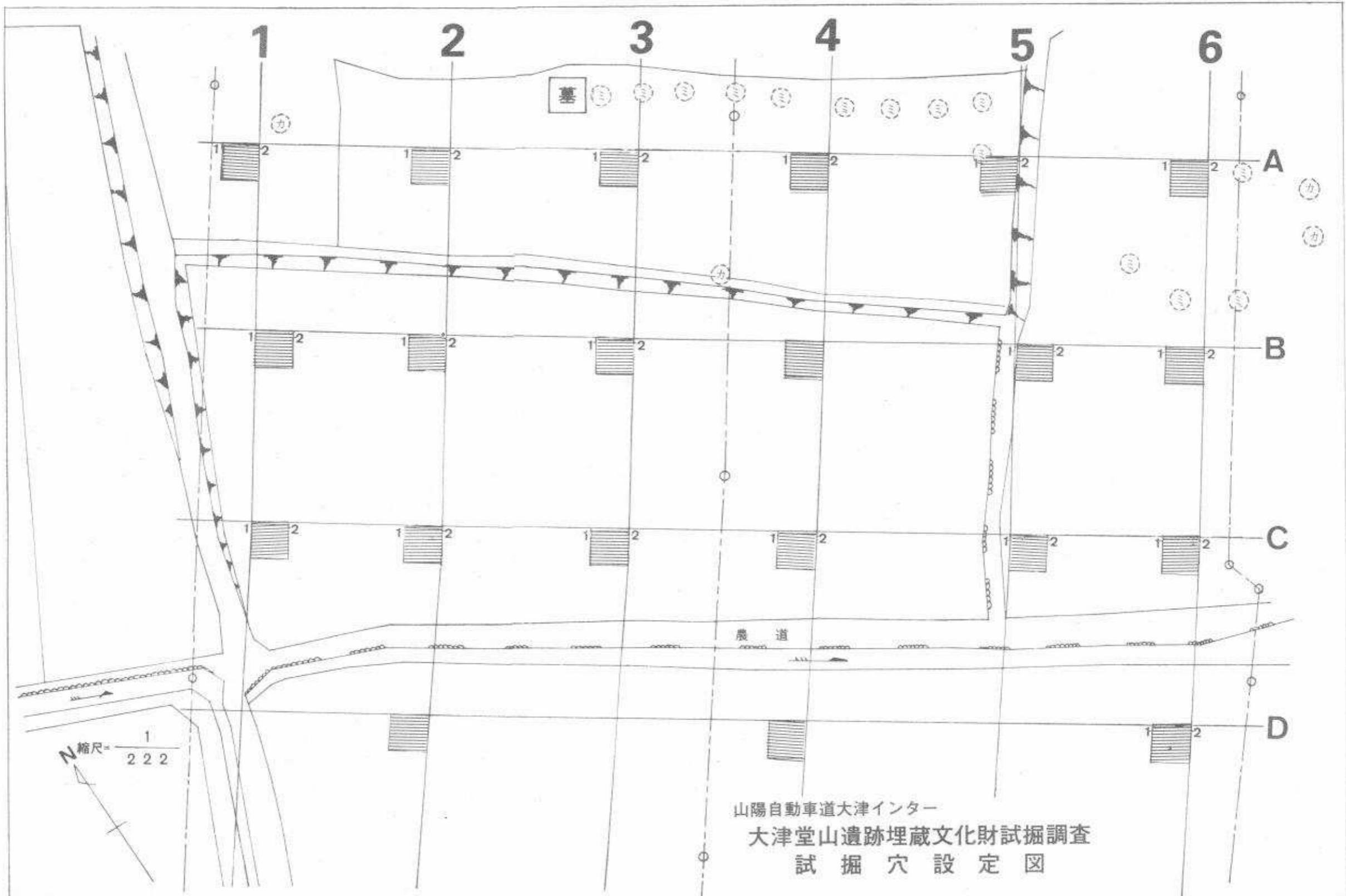
- D 4 約0.5米の深さまで発掘したが、湧水多く作業中止。出土物なし。
- D 6 0.6米の発掘において、湧水多く作業困難となる。地層は6層に分けられ、第3層の黒褐色土層から須恵器、土師器の小片が多数出土。この層に流木も埋れていた。遺構は発見されず。

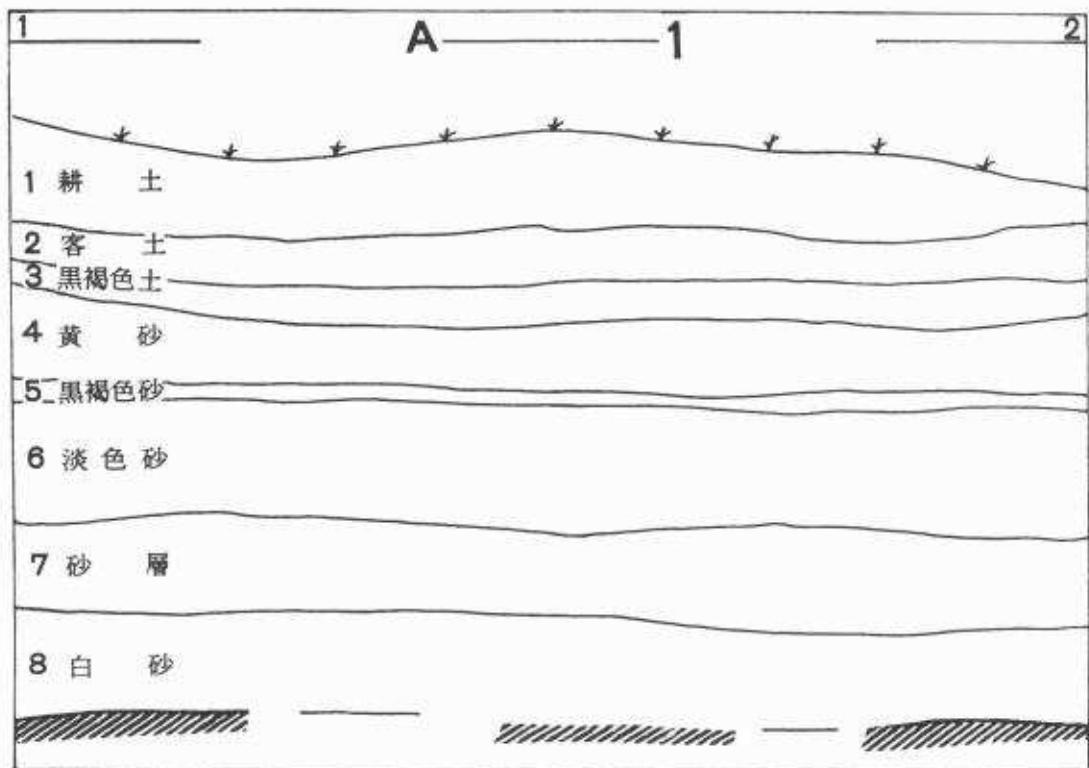
以上20ヶ所の試掘調査において得たる主な所見は、第一にA Iにおいて発見された古墳時代とみられる貝塚の発見である。この貝塚はなお北方へ広がっているものと見られ、全面発掘調査が必要である。第二にはC Iトレーナーにおける板囲いの遺構の発見である。この板囲いの遺構が何を意味するかを明らかにすることは、この板囲いのある土層が、入浜式塩田の土層と相似していることと併せ考えて、あるいは古代塩田の遺構にあらずやの推測をなさしめるものである。これを明らかにするために更に拡大して板囲いの遺構の完全調査と、塩田土層と相似た土層の全面追求のために、全面発掘調査の必要を痛感する次第である。なお、前期弥生式土器と製塩土器の発見は赤穂地方最初のもので、考古学上からみてその意義は大きいものである。

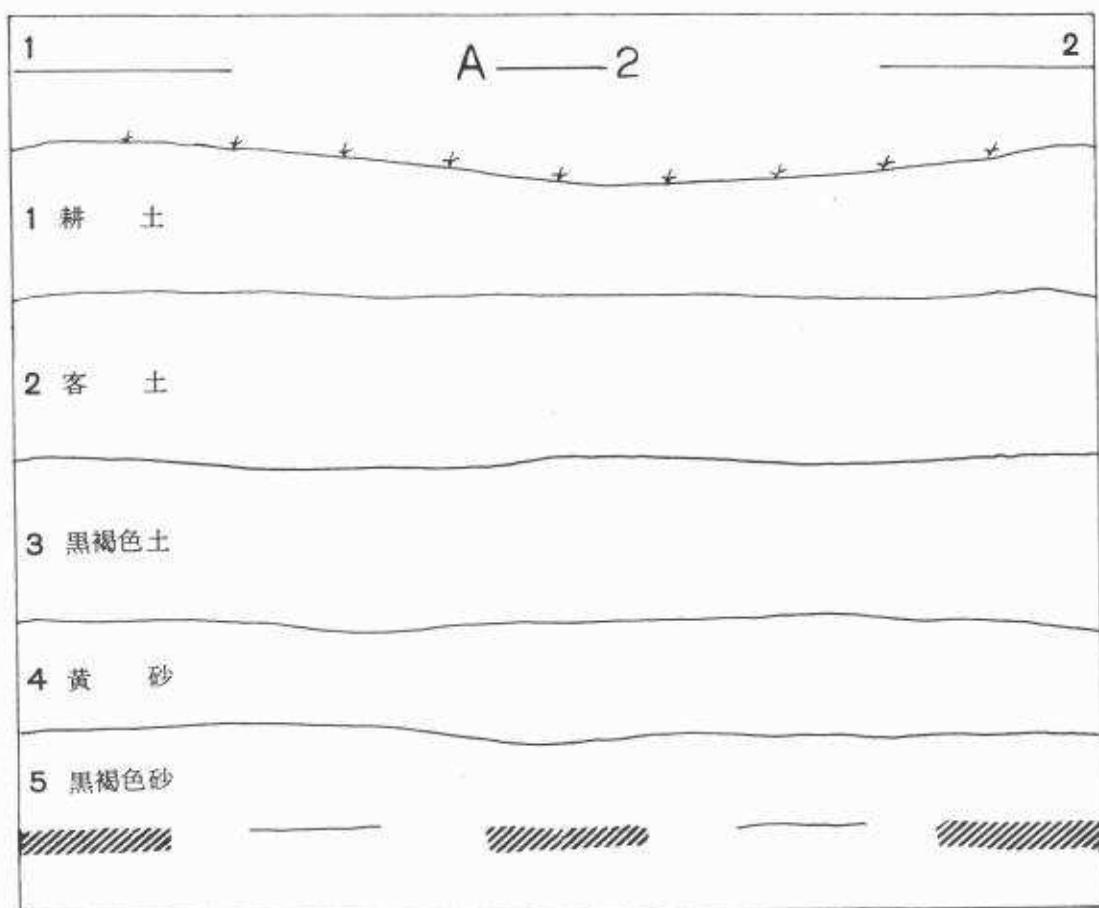
右報告いたします。

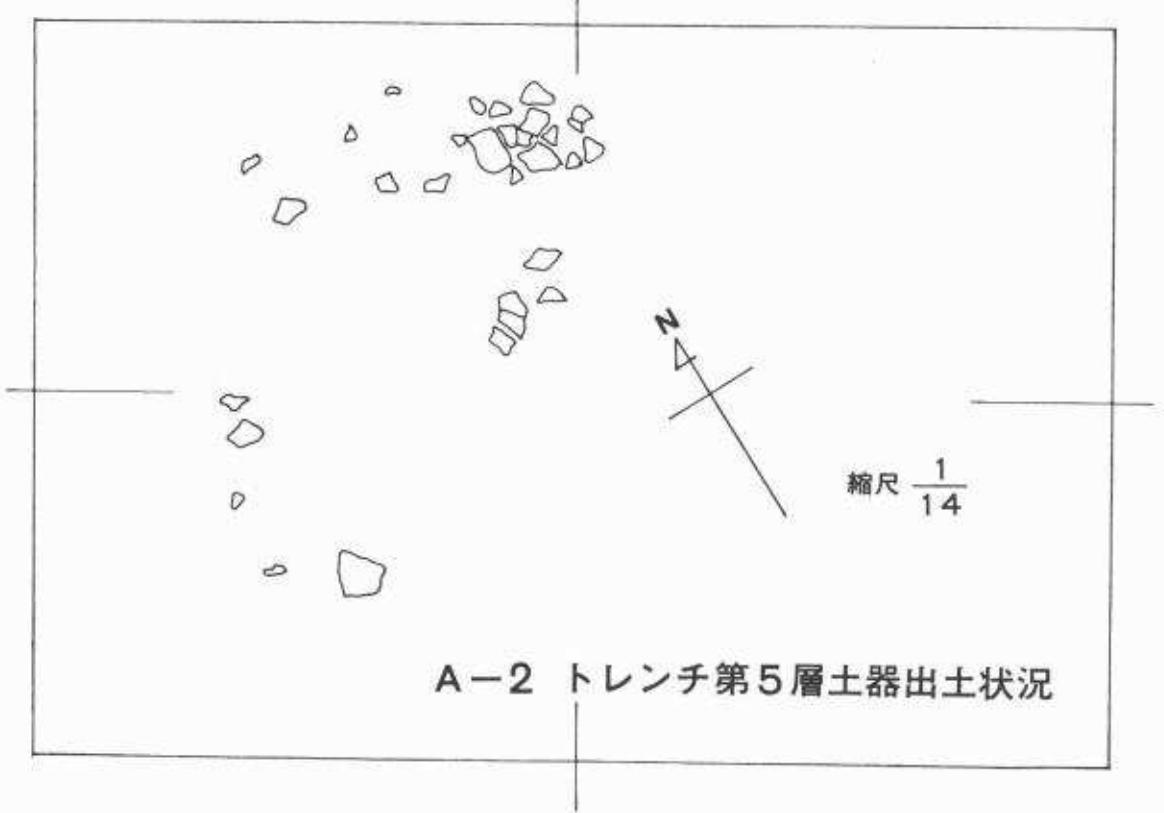
発掘責任者 松岡秀夫



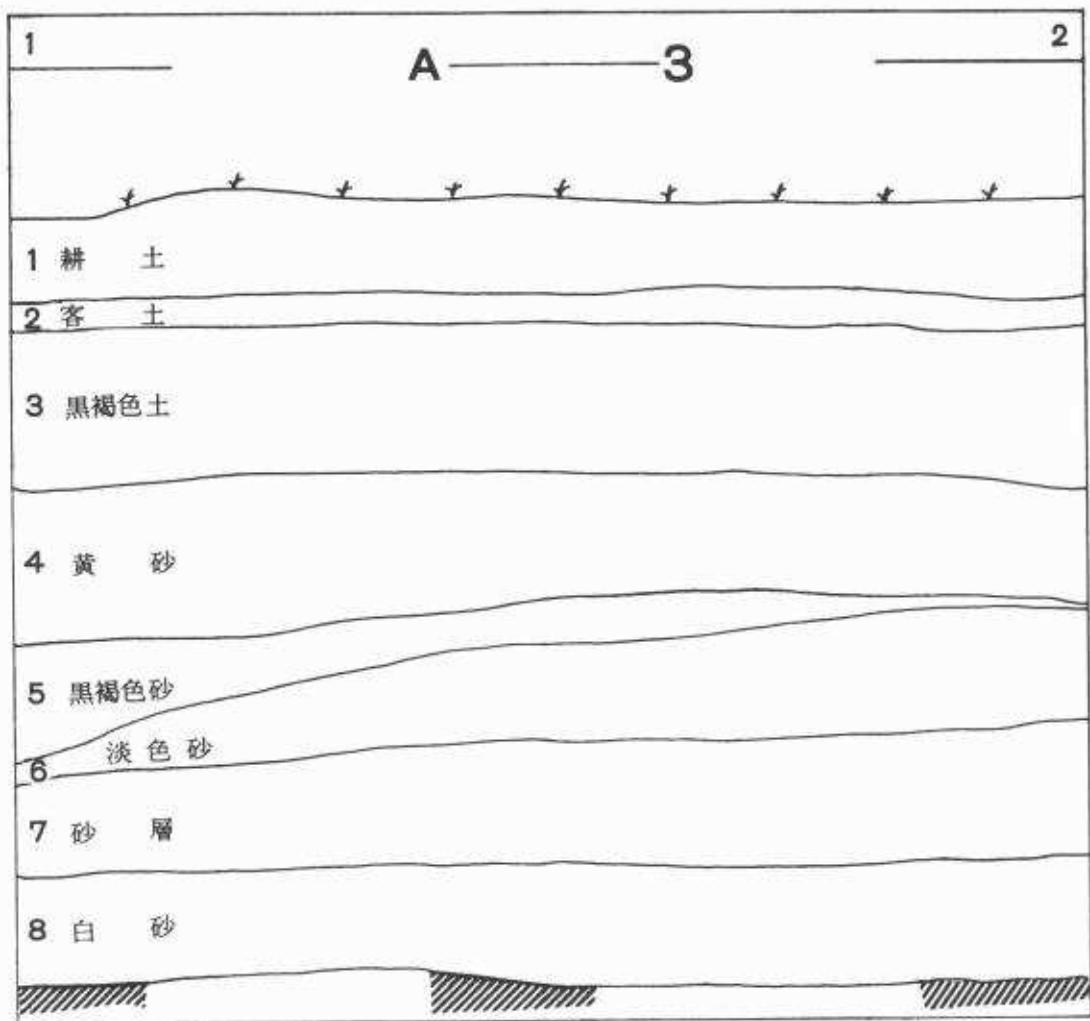


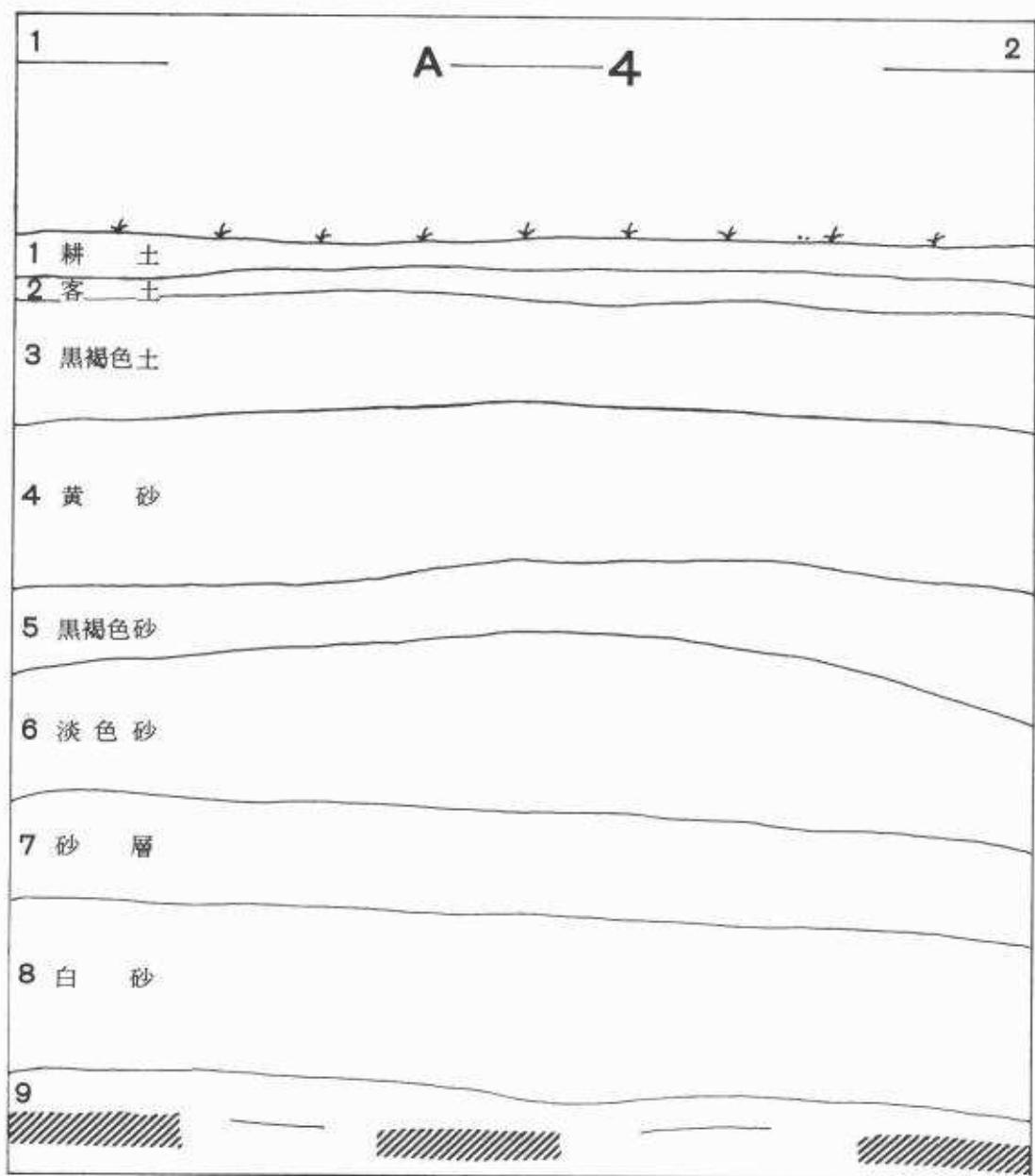


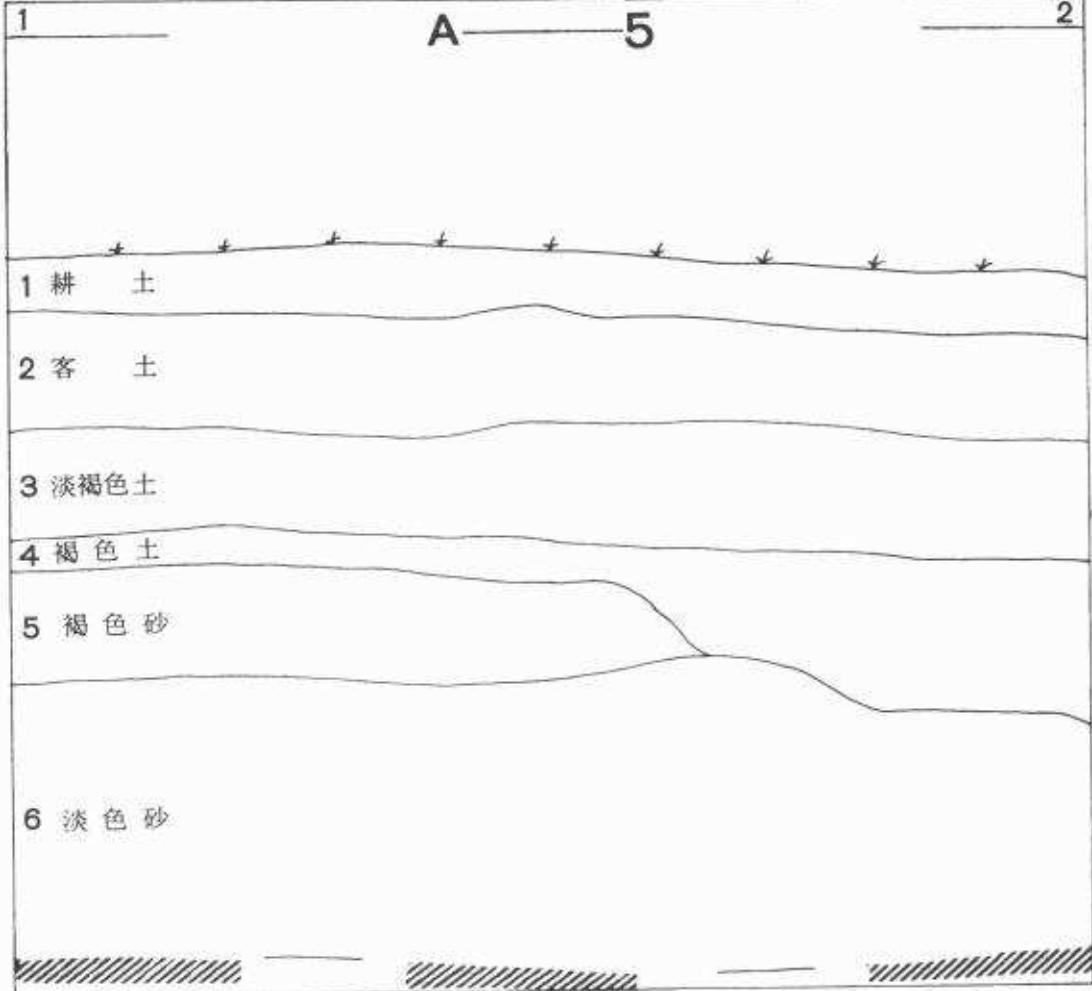


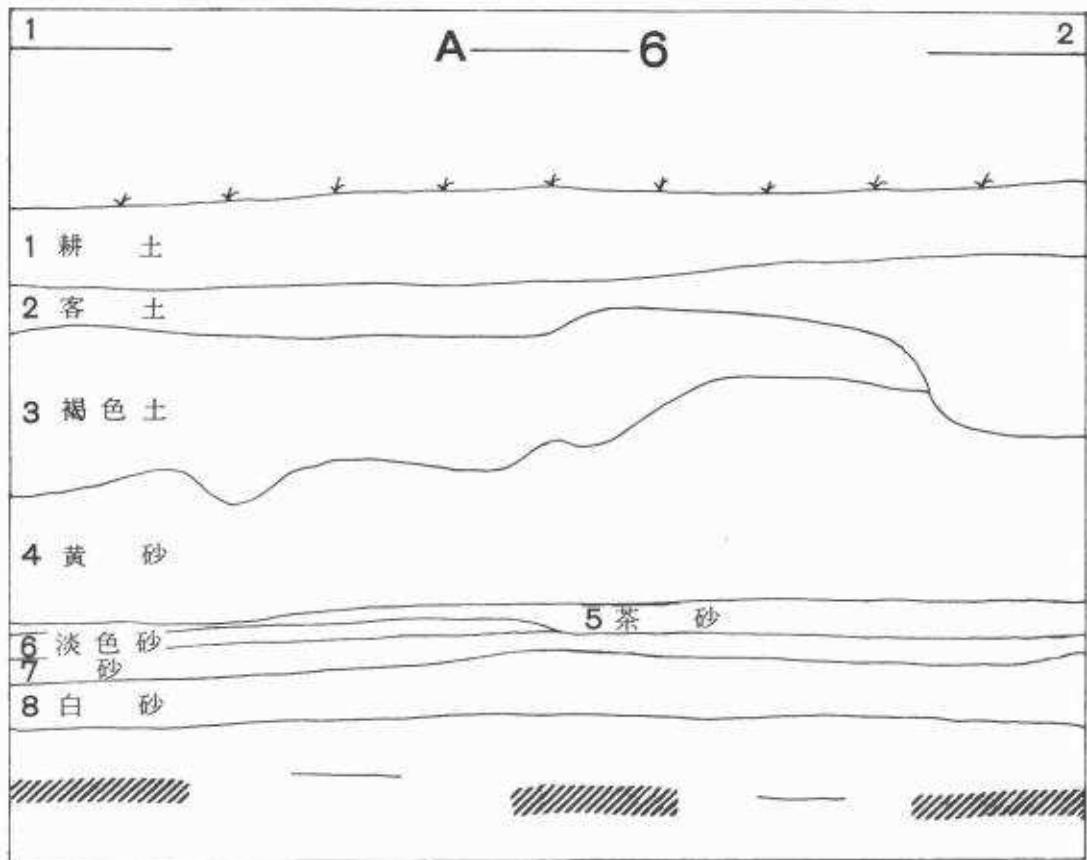


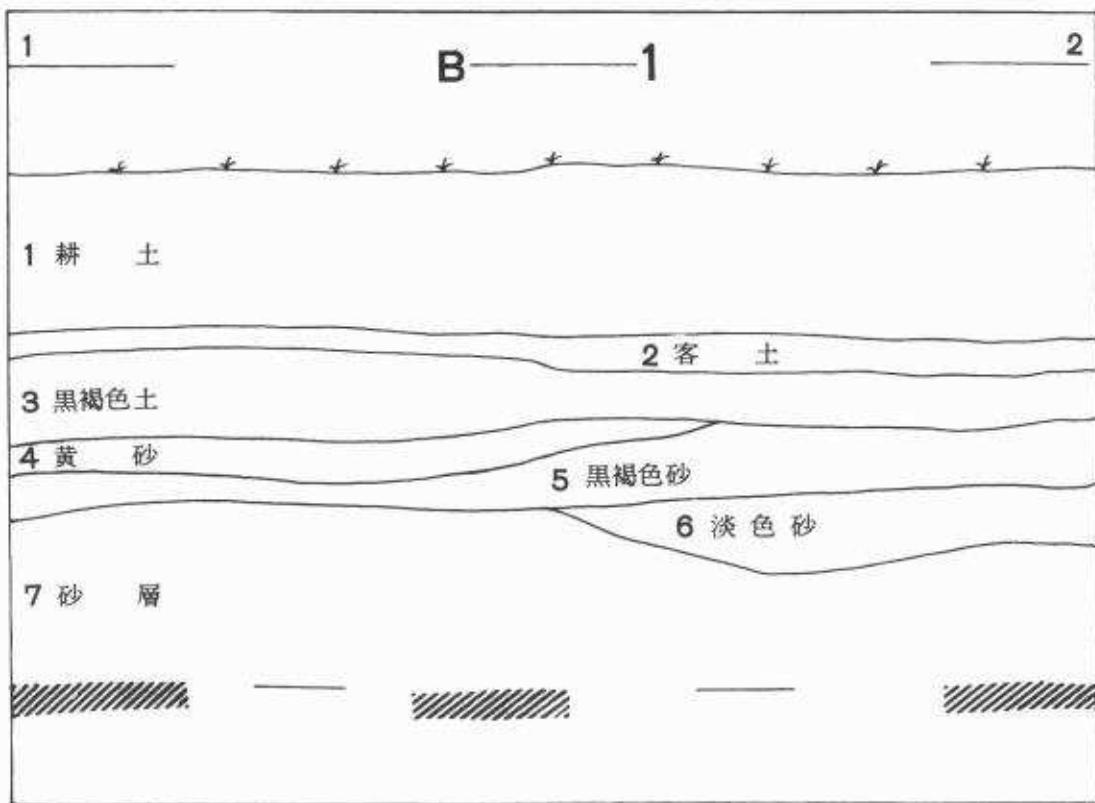
A-2 トレンチ第5層土器出土状況

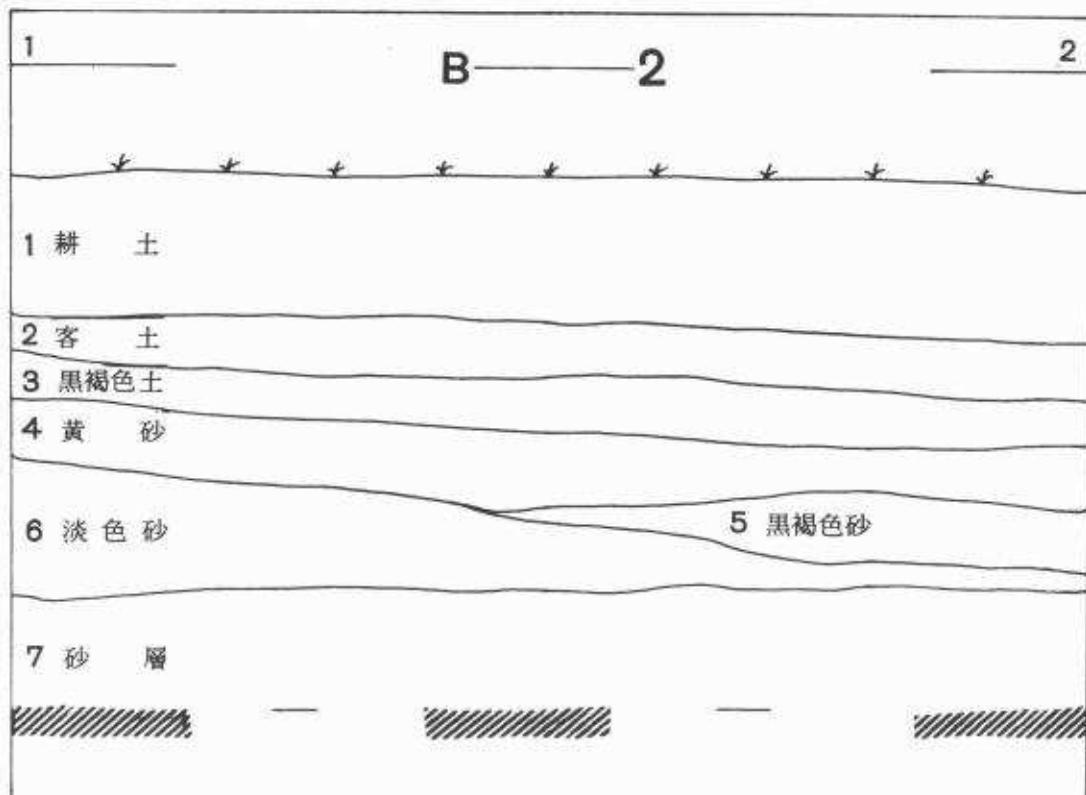


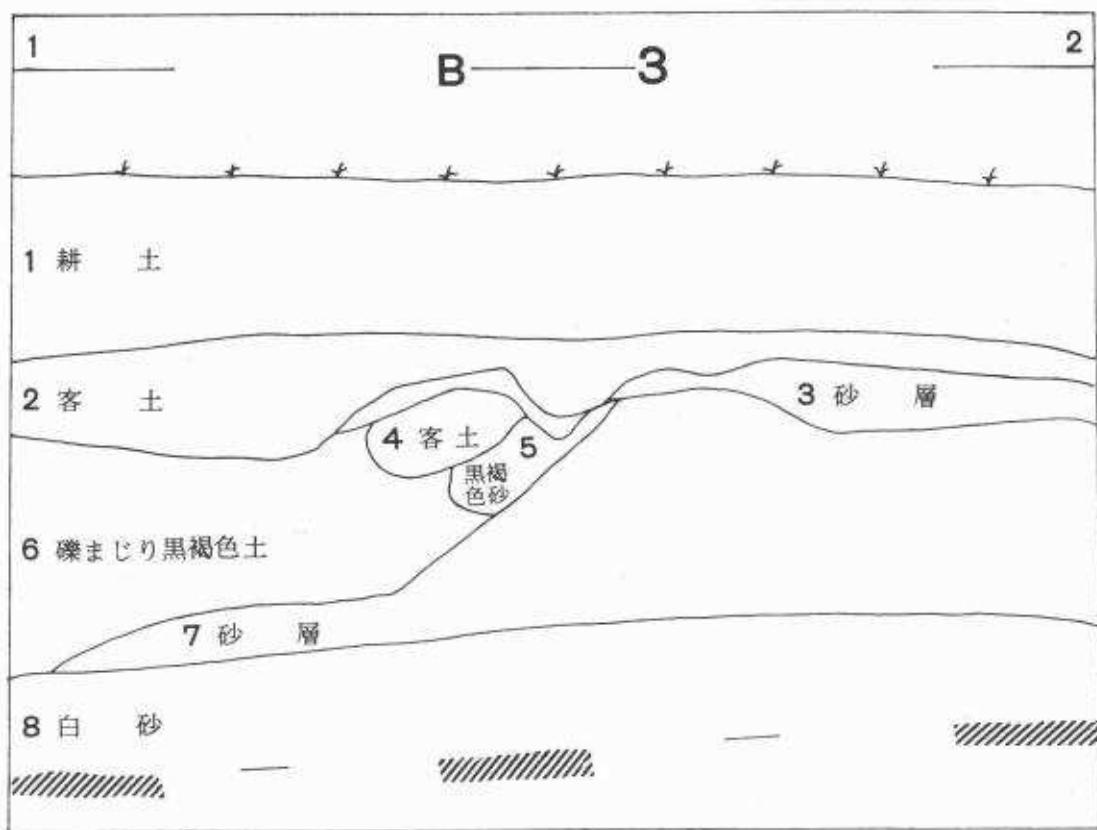


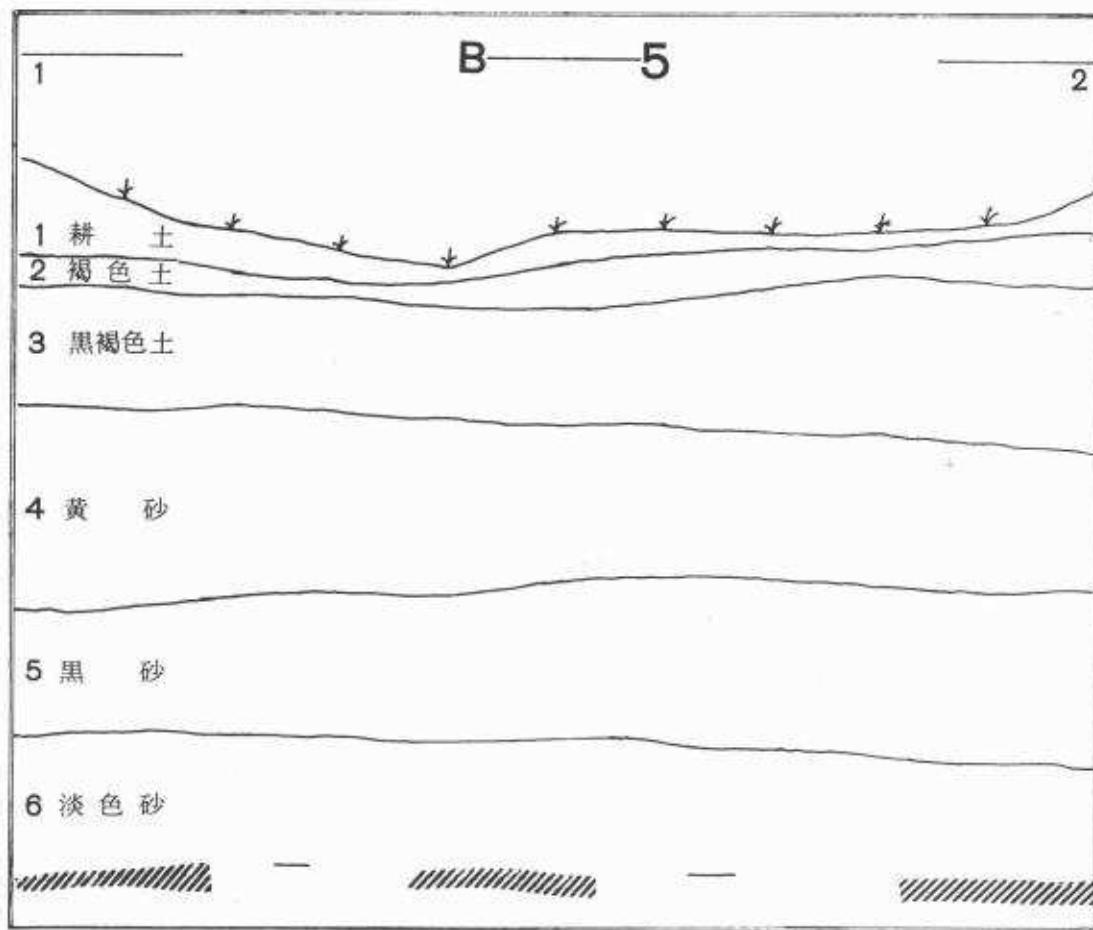


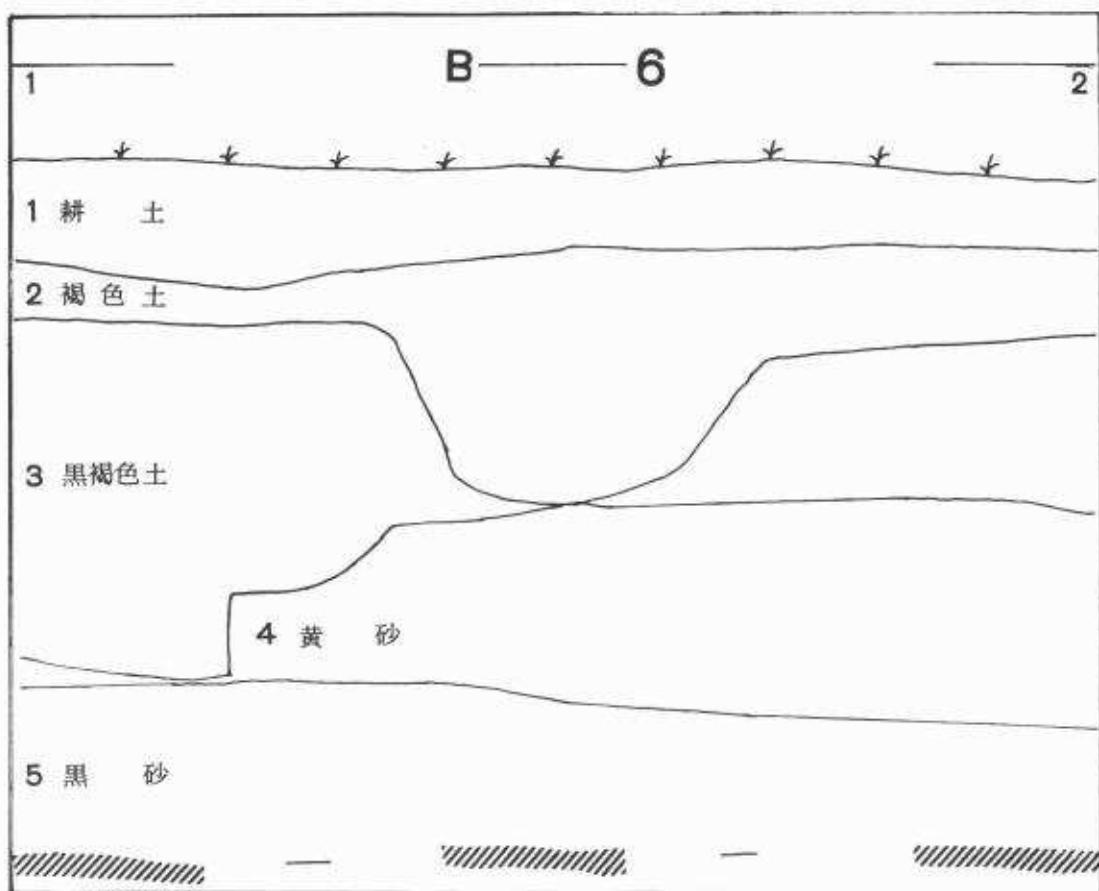


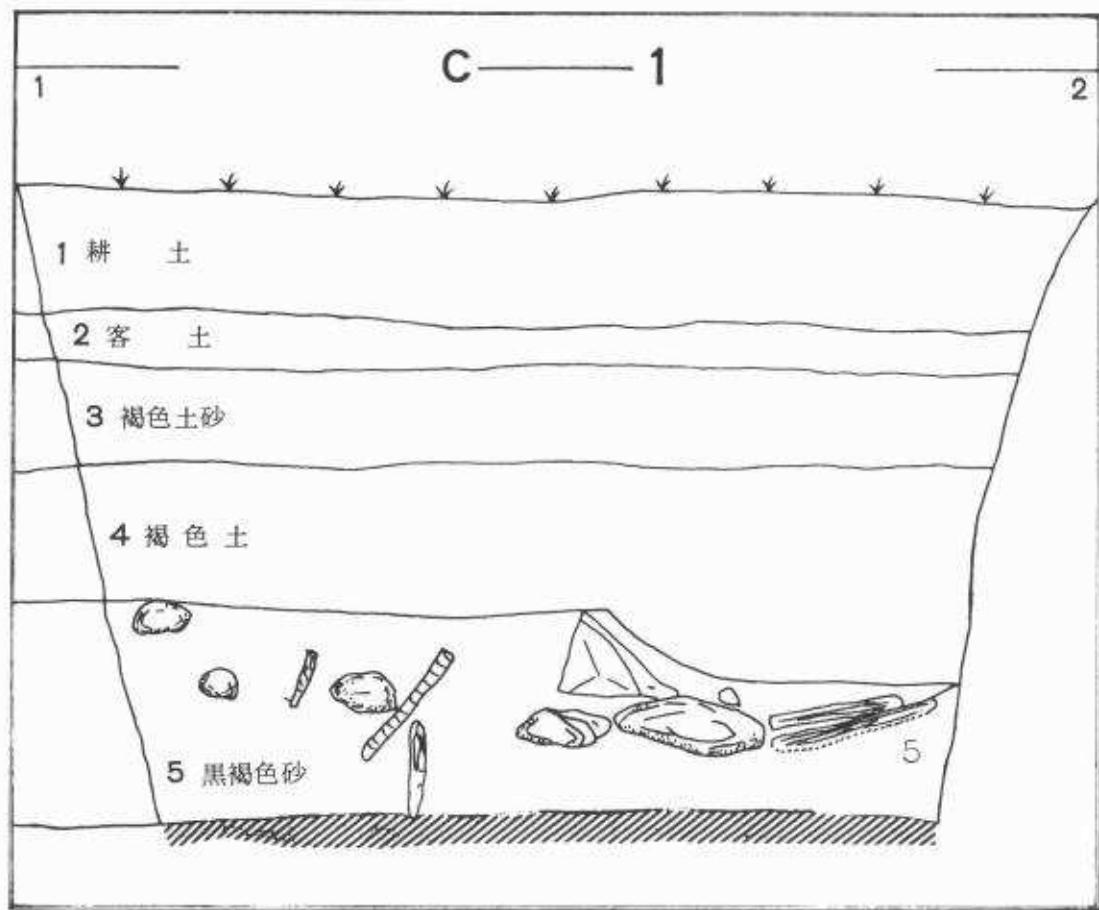


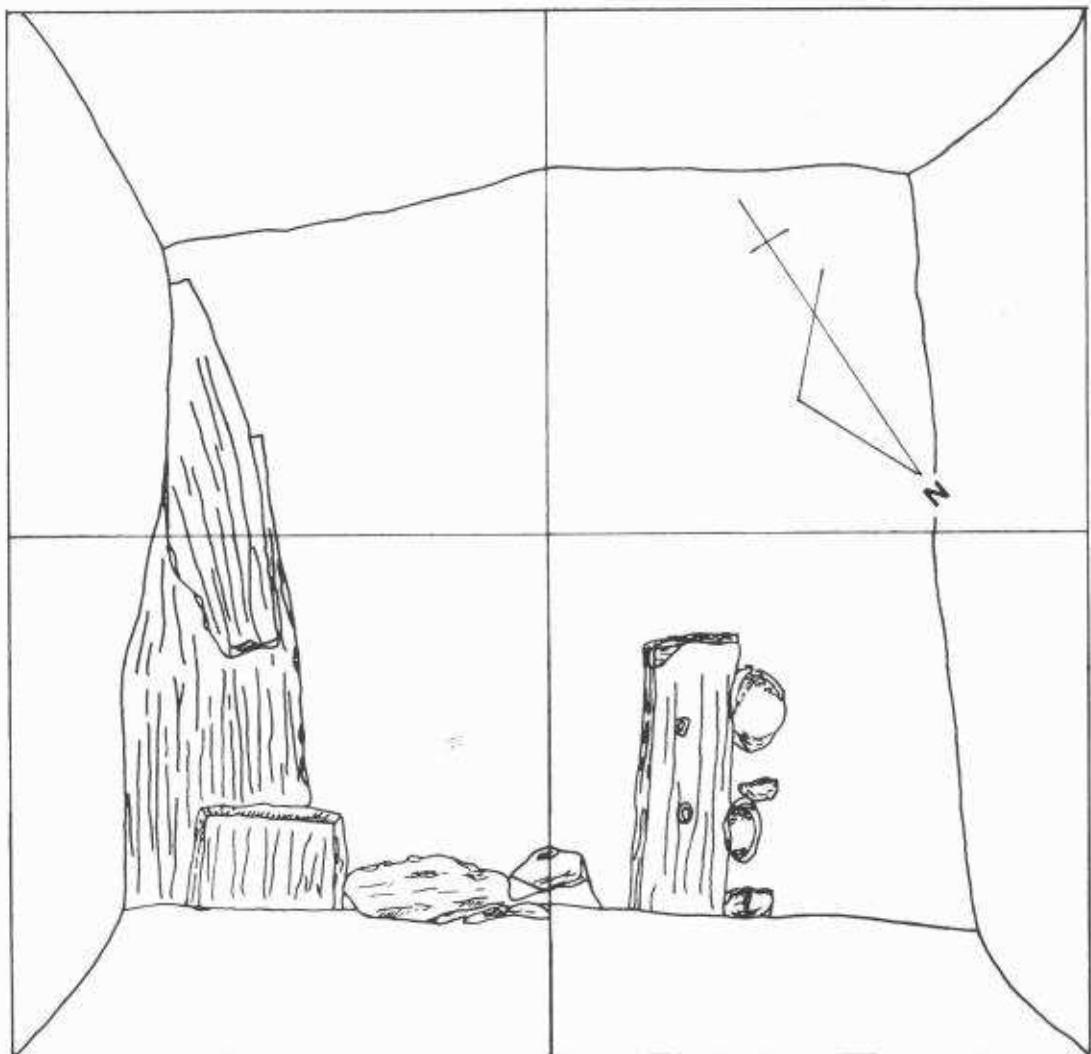








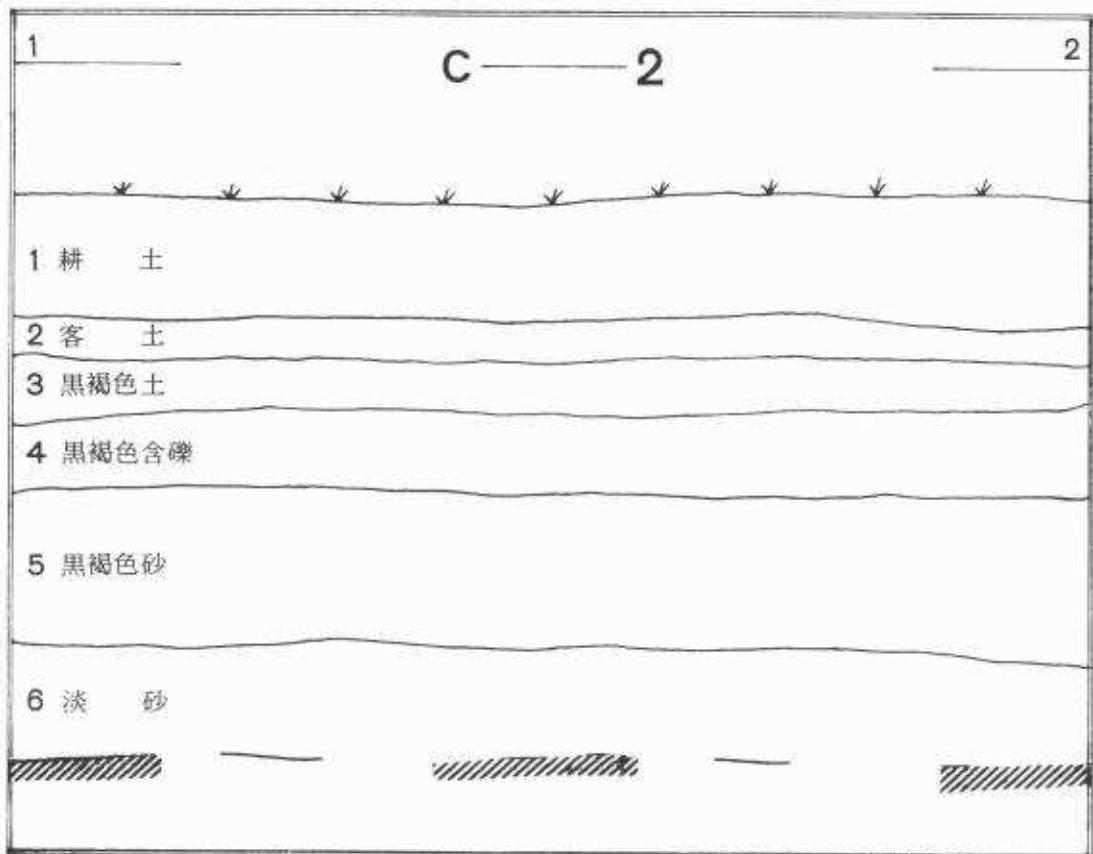


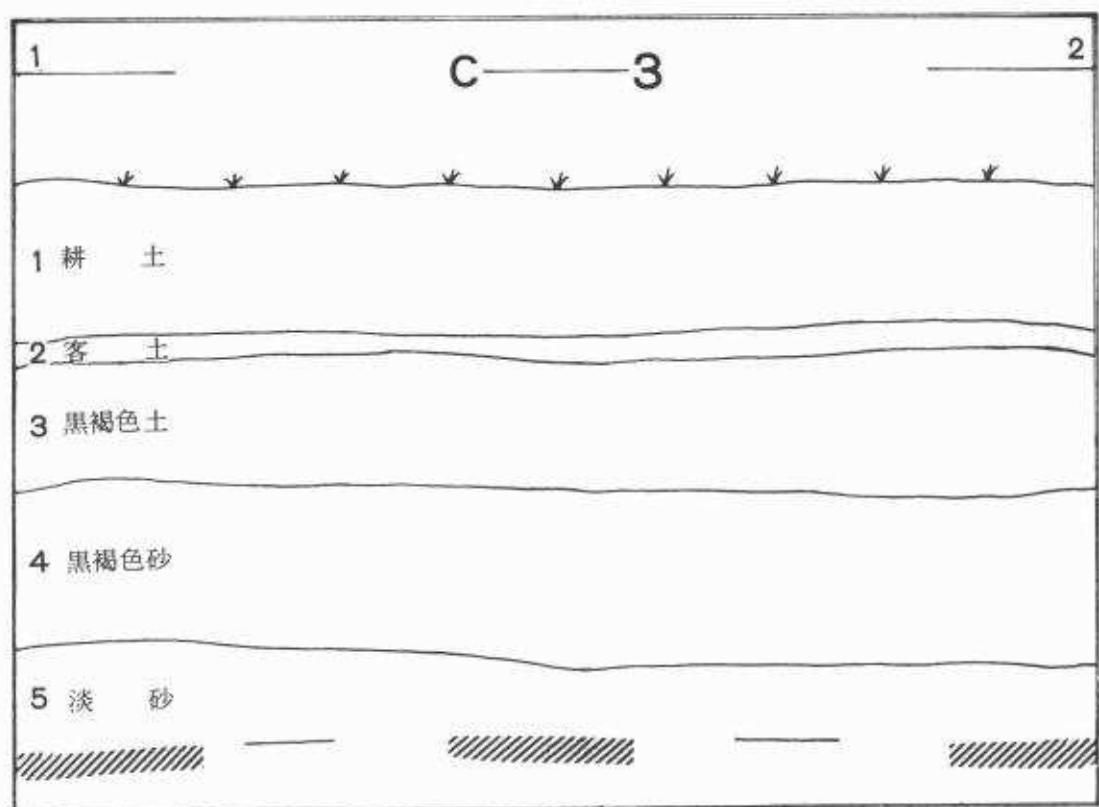


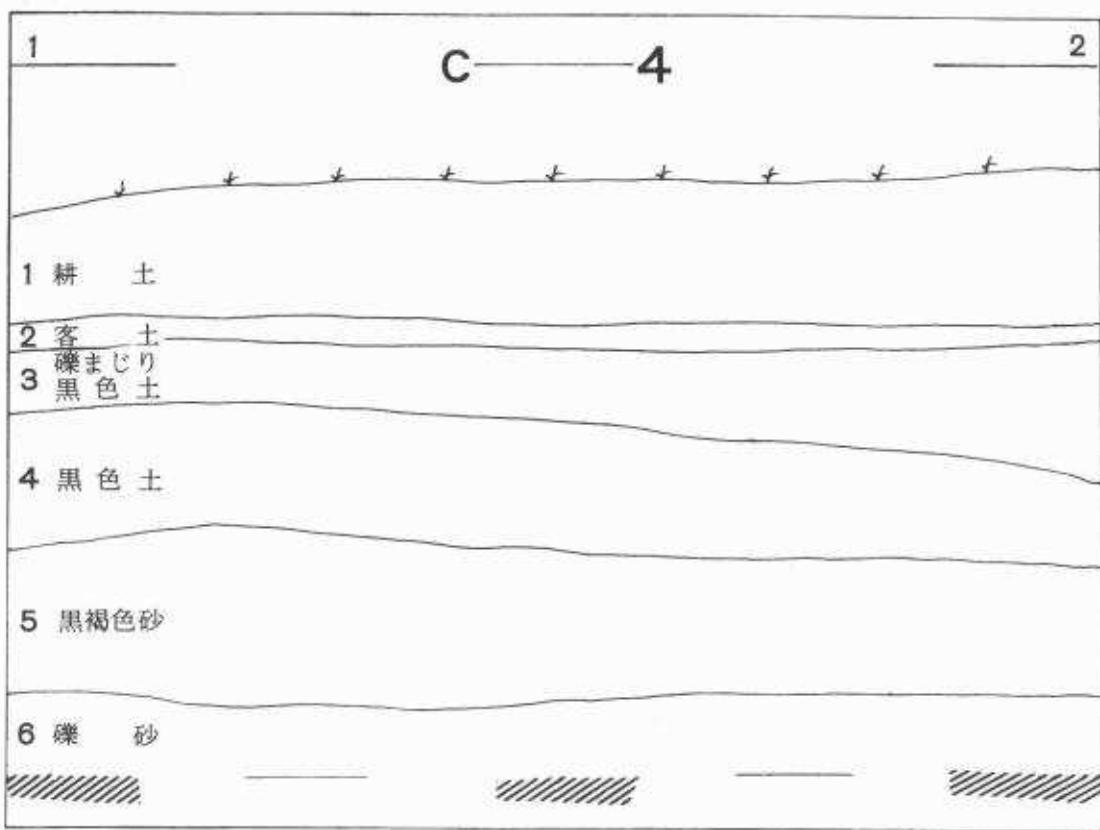
1
14

山陽自動車道大津インターチェンジ
大津堂山遺跡埋蔵文化財試掘調査

C-1 第5層材木出土状況







1

C—5

2

1 耕 土

2 客 土

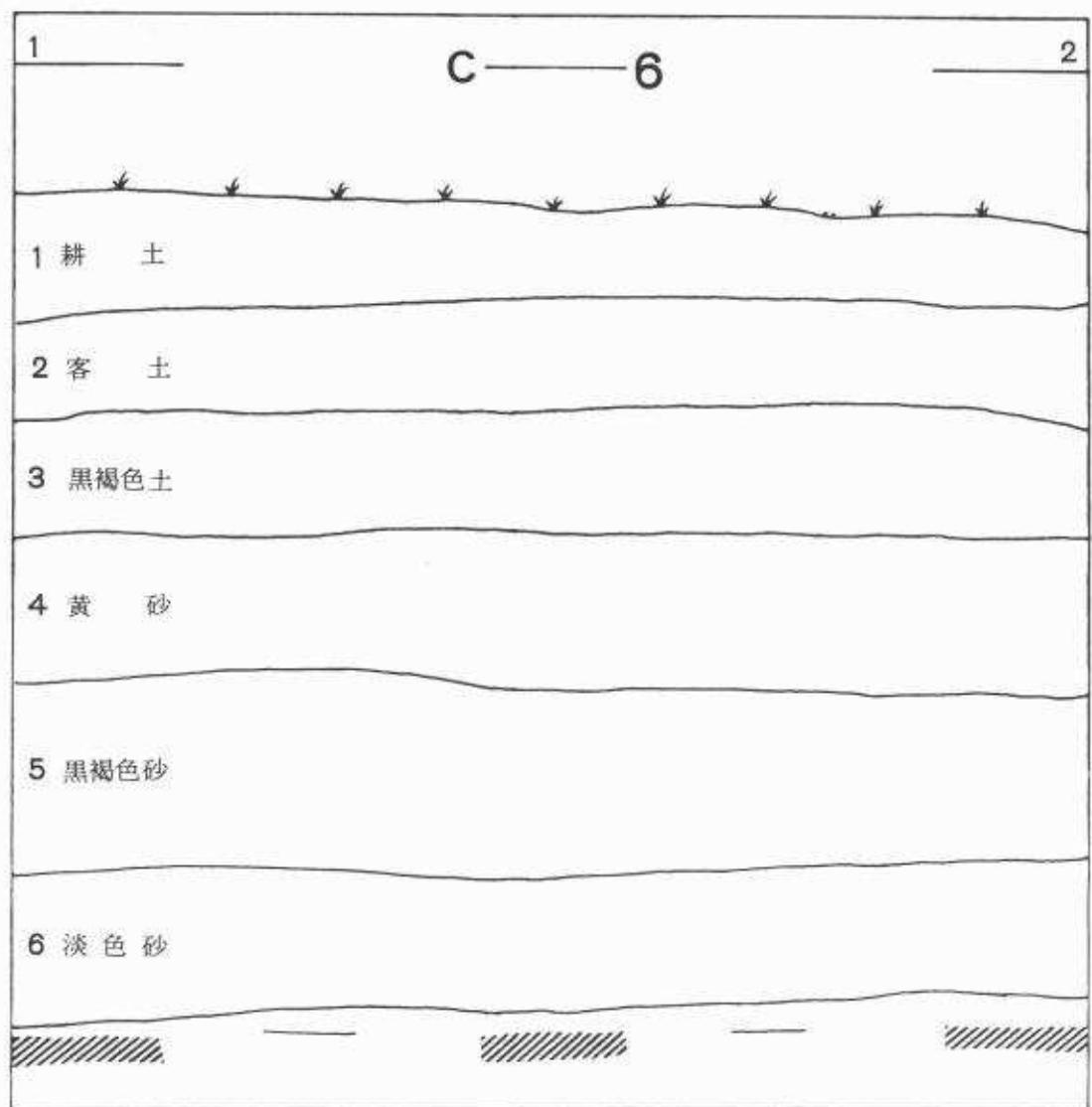
3 黑褐色土

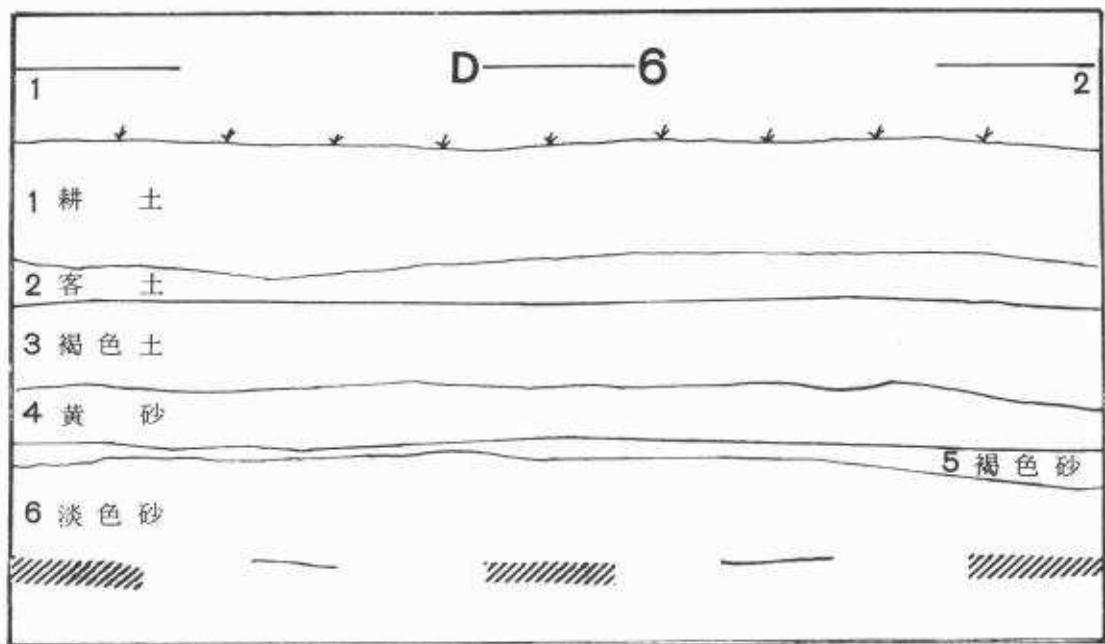
4 黄 砂

5 黑褐色砂

6 淡 色 砂





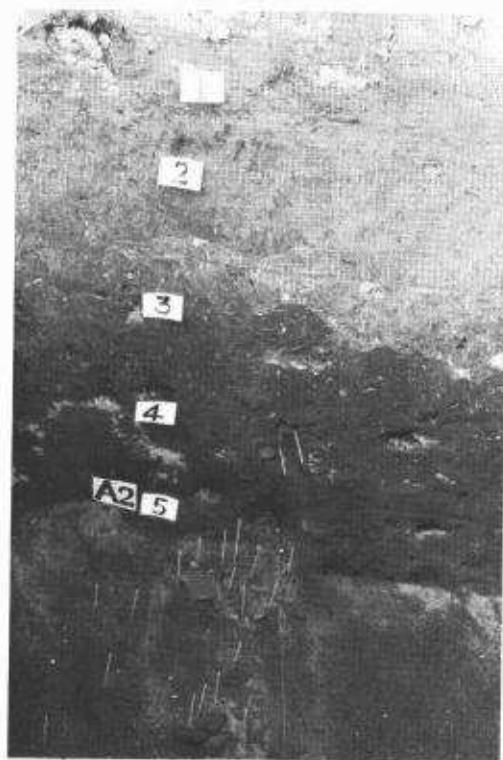


大津堂山遺跡試掘調査写真

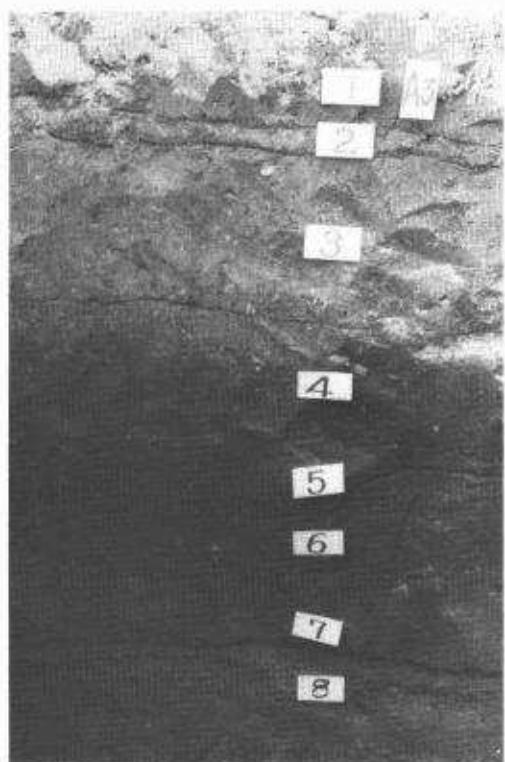
兵庫県赤穂市



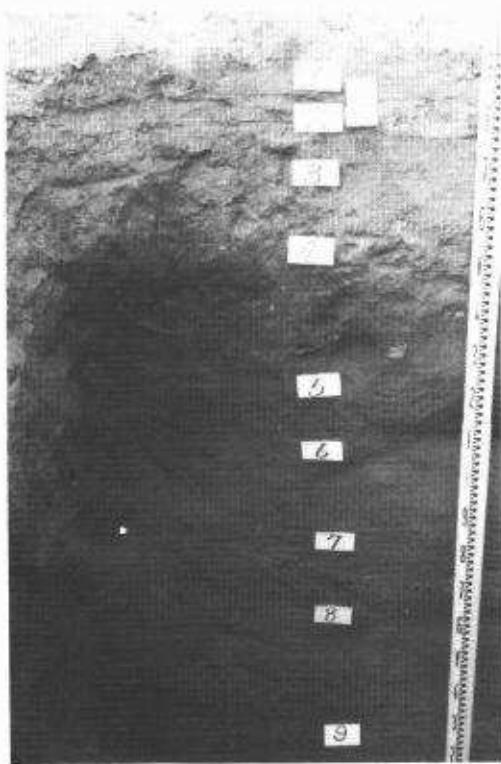
A - 1



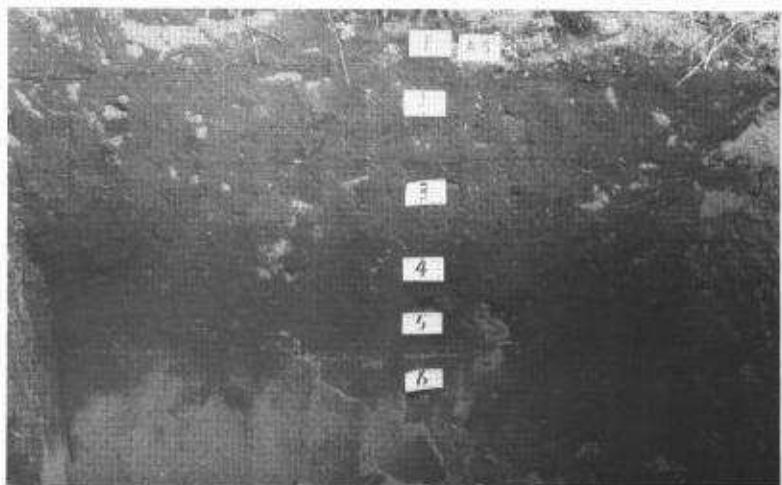
A - 2



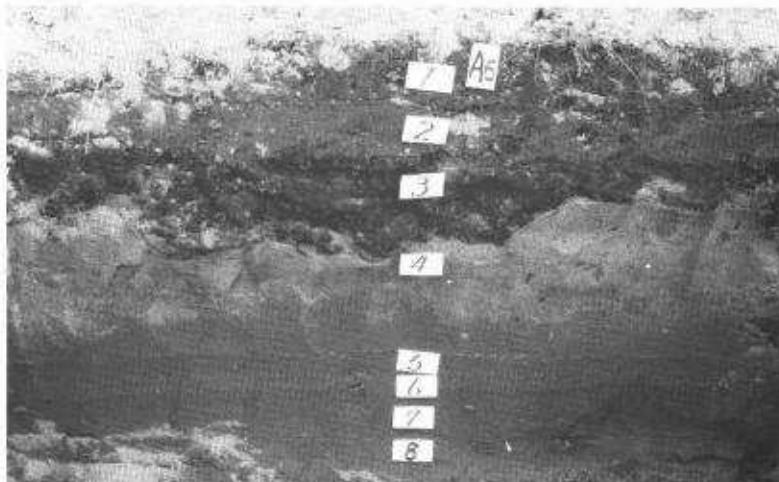
A - 3



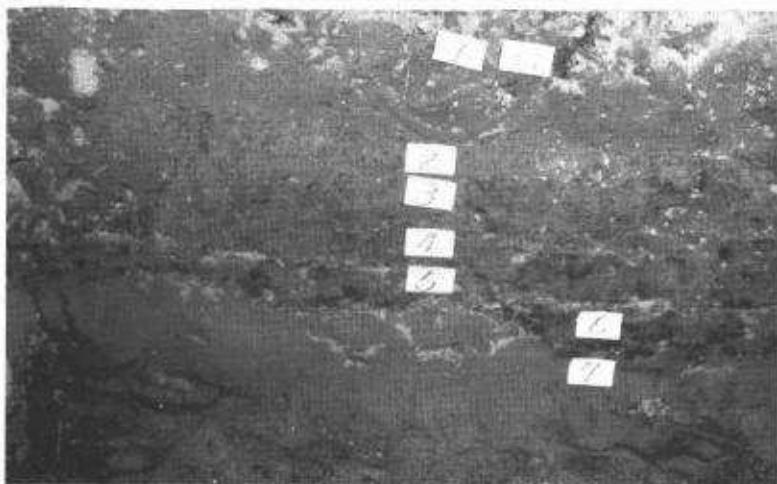
A - 4



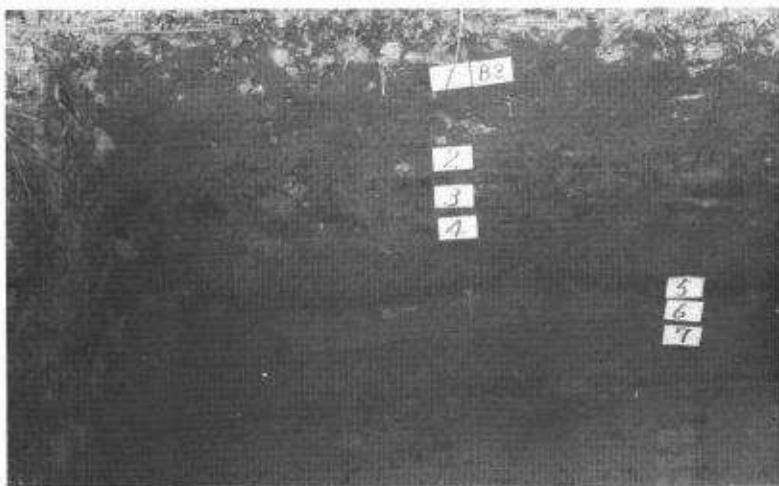
A - 5



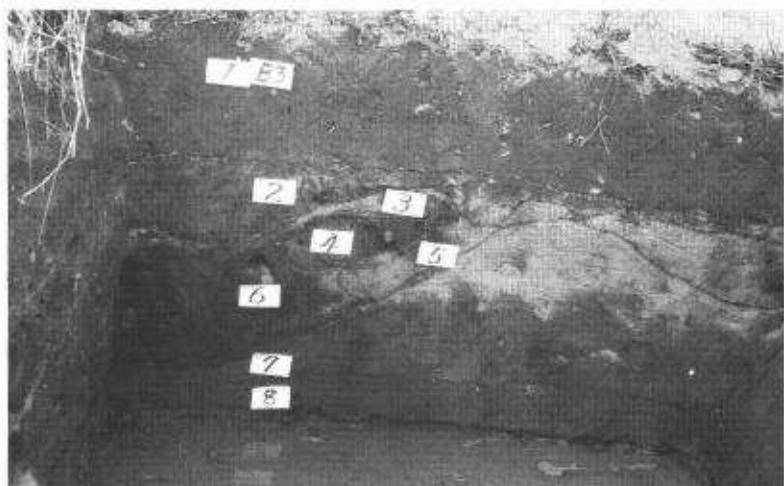
A - 6



B - 1



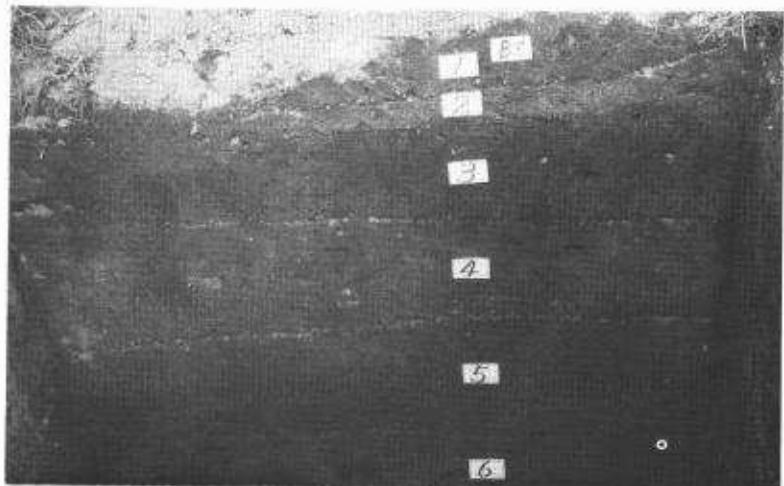
B - 2



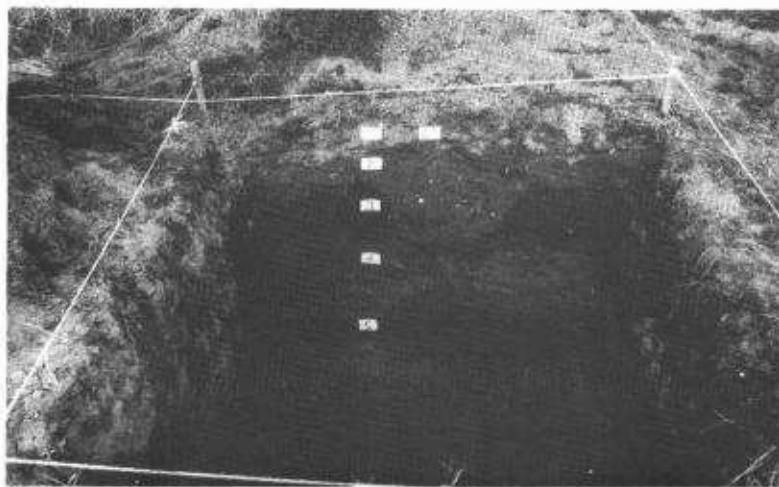
B - 3

壁が崩れて撮影不能

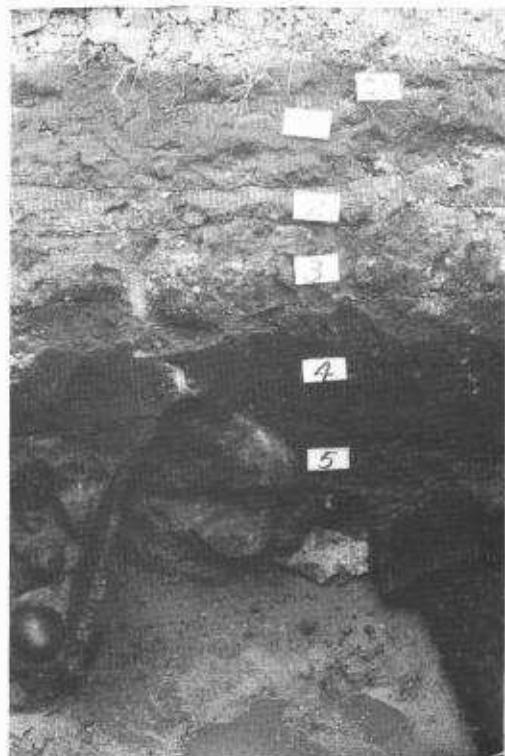
B - 4



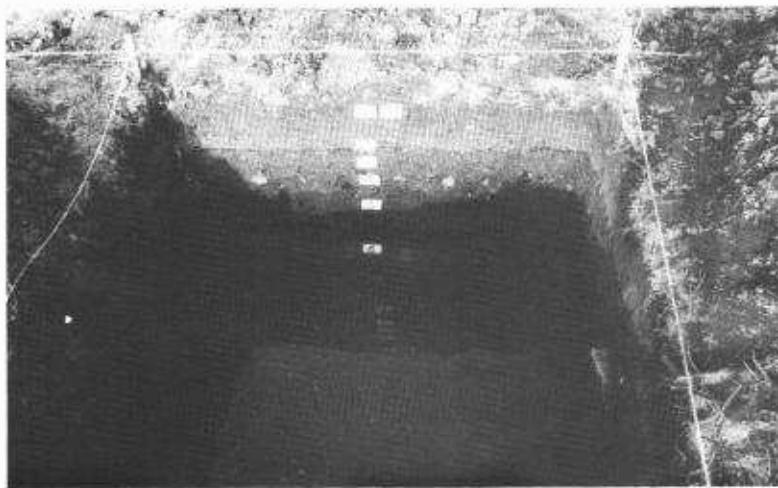
B - 5



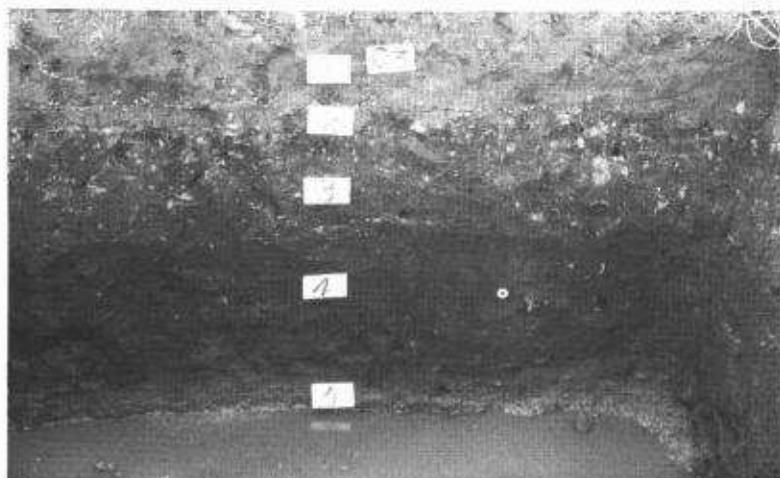
B - 6



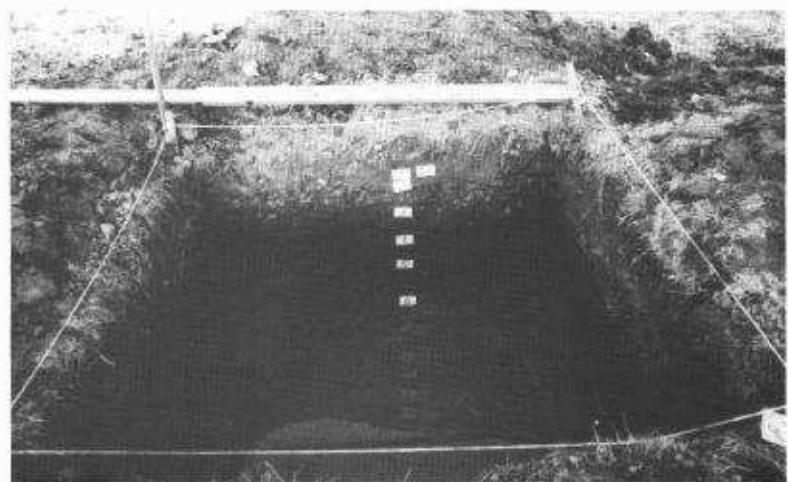
C - 1



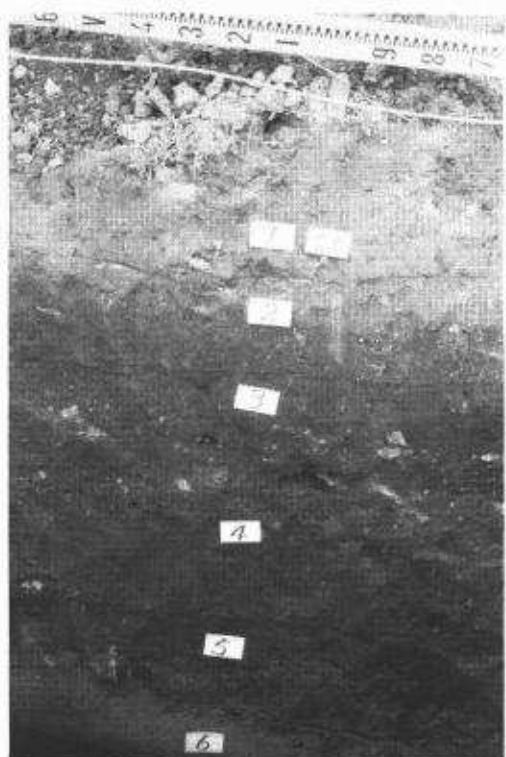
C - 2



C-3



C-4

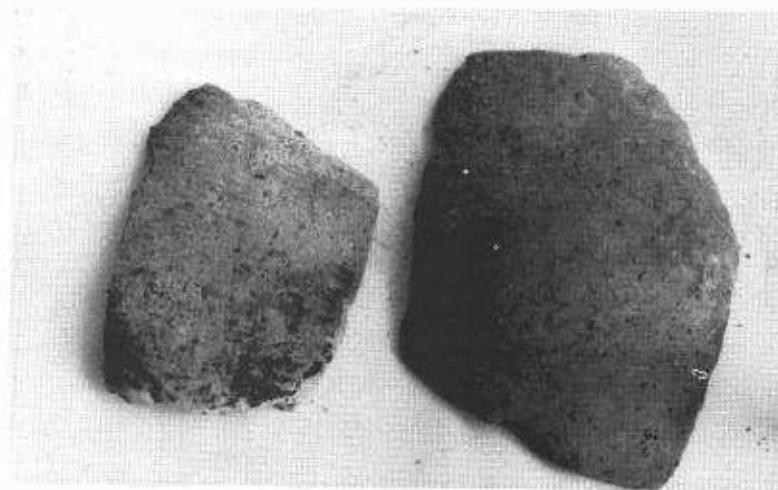
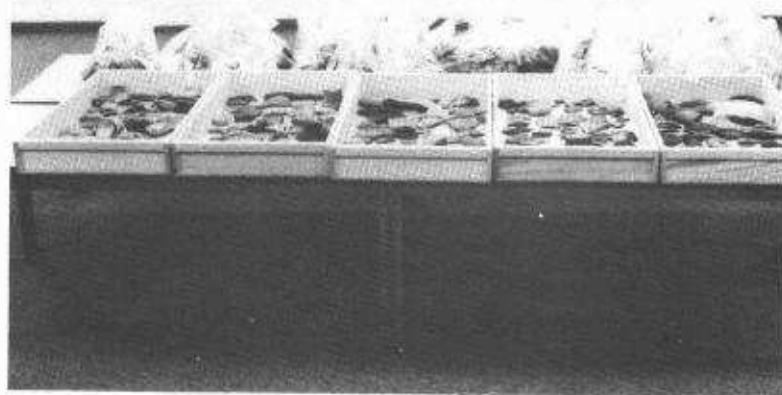


C-5

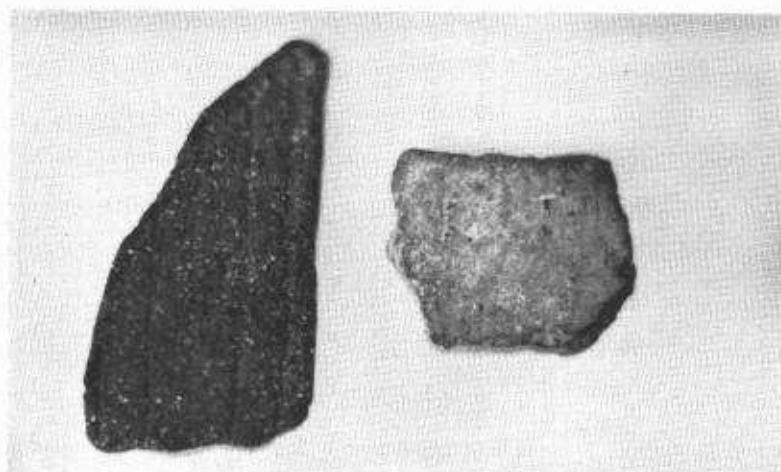


C-6

D-4 | D-6 摄影不能



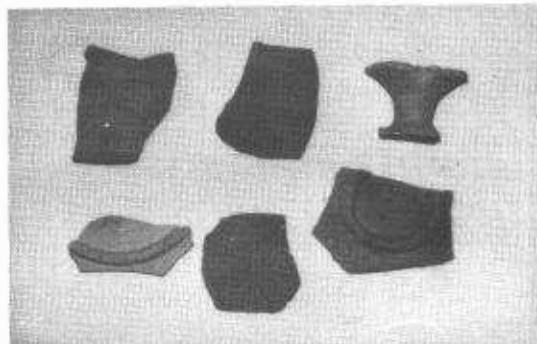
製 塩 土 器



繩 文 式 土 器



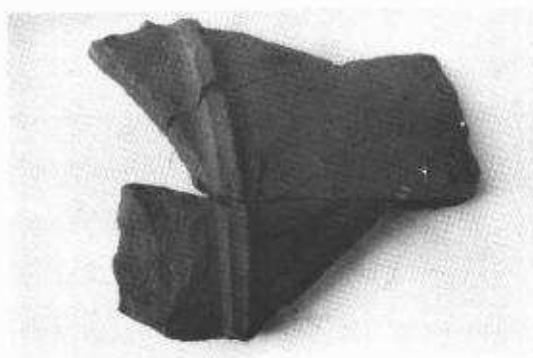
弥生(前期)式土器



須 恵 期



土 師 器



円 筒 嵌 輪



土 鍤



石 包 丁

本データは全国遺跡報告総覧において公開するため、
赤穂市教育委員会生涯学習課文化財係が編集・作成したものです。

データ編集・作成 赤穂市教育委員会 生涯学習課 文化財係
〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋 81 番地
TEL : 0791-43-6962 FAX : 0791-43-6895

令和元年（2019年）10月1日 データ編集・作成